

## 富士紀行 (12) 富士山の気象

富士山に初雪である。(H12/9/4)最もこの雪が初雪なのか或いは終雪なのかは、気温の今後の推移をみないと何とも言えないけれど。これは、平年より8日早く昨年より34日早い値である。

富士山測候所御殿場基地事務所(50550-83-1261)から頂いた資料等をもとに富士山の気象等に関する若干データを紹介しよう。

### ● 初雪

初雪は、山頂で、1日の平均気温が年間最高気温を示した日(平成12年は8月24日に10.1度)以降初めて観測した降雪を言う。この年間最高気温が今後更新された場合、初雪の日付も訂正される場合がある。気象庁の職員4名が常駐している山頂剣が峰の山頂測候所で気象統計の観測を開始した1936(昭和11)年以来、最も早い初雪の記録は1963年(昭和38)の7月31日、最も遅かったのは1943(昭和18)年の10月16日である。平年は9月12日である。

それ以前のデータとしては、初雪7月8日(1933)と言うのがある。尚、初雪とは、雪、みぞれ、霧雪、細氷を寒候期に初めて観測したことを言い、霰、ヒョウ、凍雨の場合は暖候期も生ずる現象であるので、初雪とはしない。

### ● 初冠雪

地上からみて降雪が確認されたのを初冠雪という。山の全部または一部が雪または白色に見える固形降水で覆われている状態を観測所から望観出来たときと定義されているそうである。甲府地方气象台、河口湖測候所、三島測候所が観測場所となっている。御殿場における初冠雪の最も早い時期としては、8月21日(1994)であり、最も遅い記録としては、10月24日(1955)である。平年値は9月29日である。

### ● 終雪

初雪に対する気象用語として「終雪」がある(?)。終雪の記録:最も早い時期は、6月5日(1946)、遅い時期は、9月4日(1987)で、平年値は、7月11日である。因みに、1987年の初雪は、9月16日である。1986年の初雪は、9月9日であるので、この年の雪の期間(そういうものがあるとすれば)は、約一年間ということになる。

● 最深積雪: 338cm、平年値 218cm 積雪の最も多い月は4月  
測定地点は、測候所東側(日本最高所の碑の前)

● 初積雪及び終積雪: 8/22(10/14), 6/6(9/4)

● 富士山における最大瞬間風速は、69.5m/s (1990/9/20)

● 最低・最高気温 -38度(1981/2/27), 17.8度c (1942/8/13)

- 天気 快晴、晴れ又は薄曇りの確率 元旦70%、山開きの日は35%
- 一日の日照時間の最も長い日は6月中旬であり、日の出0420、日の入り1910である。日の出は、7月から8月末に掛けては、0424から逐次に遅くなって、8月末で、0508である。
- 富士山における最低気圧は、一番厳しいときで概ね600hPaであり、平地の6割程度である。高山病に罹患しやすいのも領けよう。高地に逐次に順応しつつ登山することが必要だ。

富士学校秘書班庶務幹部照井3尉が富士山測候所技術課長海野氏に聞いた話を紹介しよう。

① 雪崩について

底雪崩は御殿場口に多い。過去19回の内16回、残3回は富士吉田口、新雪雪崩は吉田口に多く、過去13回中7回、御殿場2回、須走1回、富士宮1回山頂火口2回だそうである。

- ② 火口の積雪は夏季にはほぼ消滅する。従って万年雪はない。
- ③ 測候所及び山小屋共に雪解け水や天水を使用している。従って水は非常に貴重である。
- ④ 霧氷は風上に向かって成長する。
- ⑤ 積雪量はデータが示すように4月が一番多い。新田次郎著「凍傷」には、厳冬期の富士山頂における気象観測の成功に多大の寄与をした佐藤順一氏（強力）の雪との戦いが描写されている。

⑥ 冬山登山回数について

並木宗二郎氏（須走在住）は、冬季（11月～5月）の登山回数ではギネスものであろう。10日に1度の割で、暖房用の炭俵4俵約17kg（4.5貫）をシーズンに21回、引退までの20年間に420回実施した。平成7年引退され、須走に住んでおられる。現在では、ブルで荷物を運搬している。

- ⑦ 冒険家三浦雄一郎氏が富士山頂からスキー滑走した話は有名であるが、その為に測候所に一週間宿泊したそうである。ウォーミングのため火口に向け滑走したのは前代未聞である。尚、観測所には、救助を求めにきた等の緊急の場合以外は宿泊等はさせないとのことである。

- ⑧ 測候所の勤務は、4名、3週間のローテーションであるが、嘗てレーダーが稼働していたときは、5名勤務であった。